

福井県公害センター年報

第 6 卷
1 9 7 6

Annual Report
of
The Environmental Pollution Research Center
of Fukui Prefecture

vol. 6
1 9 7 6

福井県公害センター

ま え が き

本県の環境汚染は各方面の並々ならぬ努力によって、ようやく改善の兆が見られるようになってまいりました。しかし、その発生の際様にはさまざまなものがあるため、複雑多様化した公害の解決にはまだまだ多くの努力が求められています。

このような情勢の中で本県では単に汚染物質の排出規制の強化にとどまることなく、環境モデル県を目指して総合的な見地から環境保全の施策が強力に行われています。

青い空を守るため、49年度より整備が進められてきた大気汚染監視テレメータシステムは51年度でほぼ完成し、充実した常時監視に加え、未然防止と緊急時の措置を迅速に、そして適確に行うことができるようになりました。このテレメータシステムを美しい郷土の自然と県民の健康を守る上で役立たせるためには、何にも増して管理運営する側の私どもが、細心の注意と努力を払うことが必要であり、この意味で私どもの任務は誠に重大と申さねばなりません。

一方、きれいな水の保全のため、公共用水域の常時監視、発生源の立入調査の強化など、行政需要の急速な増大に即応しながら汚濁機構の解明等の調査研究に取り組んでいます。悪臭、騒音、振動は公害苦情の半分以上を占めていますが、今後とも市町村など関係機関と協力して調査を進めてまいりたいつもりです。

当センターでは公害対策技術部門の担当機関として、その責任の重さを痛感し、県民の健康と快適な環境づくりに職員一同、より一層の研鑽を励んでまいります。

ここに51年度の所報をお手許にお届けしますが、本書はセンターの運營業務、調査研究など一年間の活動記録をまとめたものです。内容不十分なところは今後充実してまいりたいと思いますので、皆様の卒直なご意見、ご指導を賜われれば幸いに存じます。

昭和52年 8 月

福井県公害センター

所 長 岸 彦 平

目 次

1 運 営 概 要

1. 沿 革	1
2. 機 構	1
3. 業 務 内 容	1
4. 人 員	2
5. 業 務 分 担	2
6. 予 算	4
7. 事業実施概要	5
(1) 公害技術会議	5
(2) 公害技術研修	5
(3) 市町村職員技術研修	6
(4) 研究発表	6
(5) 大気汚染防止対策	6
(6) 水質保全対策	44
(7) 施設見学者	72
8. 備品整備状況	72
9. 誌上および学会発表抄録	75

2 調 査 研 究

1. 硫黄酸化物自動測定機の吸収液の蒸発損失による指示値への影響について(第1報)	77
2. 硫黄酸化物大規模発生源の環境濃度に及ぼす影響について(第1報)	91
3. 敦賀局における硫黄酸化物の濃度変動	97
4. 市街地における窒素酸化物の垂直分析について	102
5. オキシダント濃度上昇時の気象条件について	115
6. 大気中重金属濃度調査(第4報)	133
7. 大気汚染による金属腐蝕調査(第5報)	
大気汚染による金属腐蝕量調査	143
8. 悪臭物質に関する研究(第2報)	
硫化水素の分析における妨害物質の影響等の検討	156
9. アサガオによる光化学スモッグ観察	160
10. 山間部における大気汚染調査	170

11. 福井市周辺の九頭竜川支派川汚濁調査	175
12. 河川の浄化機構に関する研究	
第2報 竹田川の水質について(その2)	246
13. 水田排水による河川水質への影響	
有機物, 窒素, リンの溶出	252
14. 高分子凝集剤に関する調査研究	
第4報 無機塩類共存時の残留性について	267